

中小企業性製品の貿易構造と決定要因 (報告要旨)

神戸大学大学院経済学研究科 丸山佐和子

本論の目的は中小企業性製品の貿易構造を明らかにし、その決定要因を検証することである。グローバル展開が一般的になった大企業と比べ、中小企業のグローバル化は低い水準にとどまっている。中小企業庁『中小企業白書 2012 年版』によると、中小製造業企業のうち自ら直接輸出を手掛ける企業は増加傾向にあるものの、2009 年では全体の 2.8%にとどまっている。また、直接投資を行う中小企業のうち製造業は 2,869 社で、全体の 1%程度と低い水準にある。このように自ら積極的に海外展開を行う中小企業は少ない一方で、急激な円高や FTA/EPA による貿易自由化など、我が国を取り巻く経済環境の変化により中小企業が受ける影響も増している。

本論では中小企業全体に影響を及ぼしうる貿易に焦点を当て、中小企業に関連する財の貿易実態の把握を試みる。まず、中小企業による出荷比率の高い業種を中小企業性業種とし、「工業統計」を用いて業種の特特定を行った。さらに、これらの業種の製造する品目に対応する貿易財を中小企業性製品とし、「貿易統計」を用いてデータベースを作成した。このデータベースを用いることで、自ら積極的に海外展開を行う中小企業のみならず、国内取引のみを行う中小企業にも影響を与える輸出入の実態を把握することが可能である。

中小企業性製品の輸出は輸出全体の約 4%を占めるのに対し、輸入では全体の 20%前後を占めており、中小企業性製品の貿易は輸出よりも輸入で活発に行われている。貿易構造の分析により、輸出入とも東・東南アジアとの間で盛んであり、さらに中国の構成比が拡大する一方北米・EU などの先進国の比率が低下する傾向にあることが明らかになった。

グラビティ・モデルを用いた貿易フロー決定要因の検証からは、所得水準の差および輸送コストの影響に関して労働集約的である中小企業性製品の特徴と合致する結果が得られた。輸入全体と中小企業性製品全体の弾性値を比べると、中小企業性製品の弾性値の方が大きく、所得水準がより低い相手国からの方が輸入が大きくなる傾向にある。また、距離の弾性値については輸出入とも中小企業性製品で弾性値が大きくなっており、輸送コストの影響を受けやすいという結果が得られた。さらに、中小企業の増減率に対する影響の検証を行ったところ、中小企業及び中小企業性業種の事業所が中国製品の流入によって淘汰されている可能性が示された。これらの結果から、中小企業は国内市場に流入する輸入品との間で厳しい競争にさらされている現状が浮き彫りになった。